

3. 関連経済指標の概況

(1) 業況判断

日本銀行「企業短期経済観測調査」(2004年12月)

建設業(大企業)の業況判断DI(「良い」-「悪い」)

前回9月調査の「最近」は-13、今回調査の「最近」は -12、「先行き」は -8となった。

前回9月調査の「最近」と今回調査の「最近」との変化幅をみると1ポイント改善しており、先行きは4ポイント改善となる見込み。

不動産業(大企業)の業況判断DI(「良い」-「悪い」)

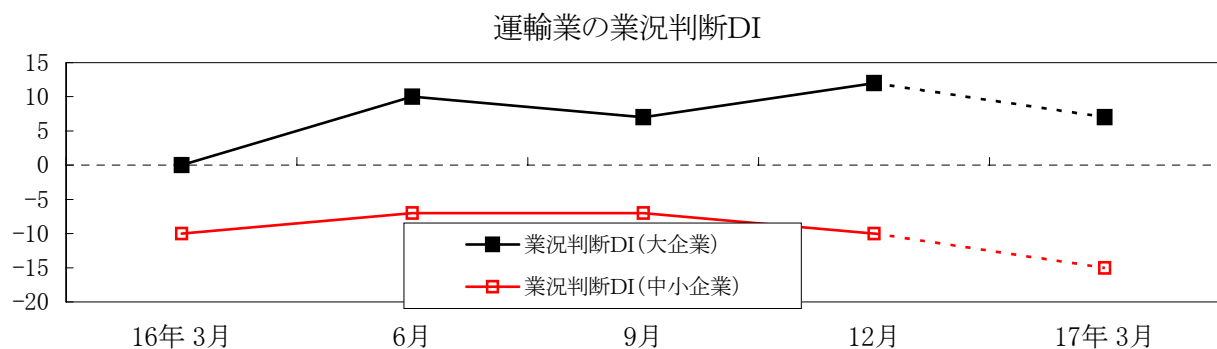
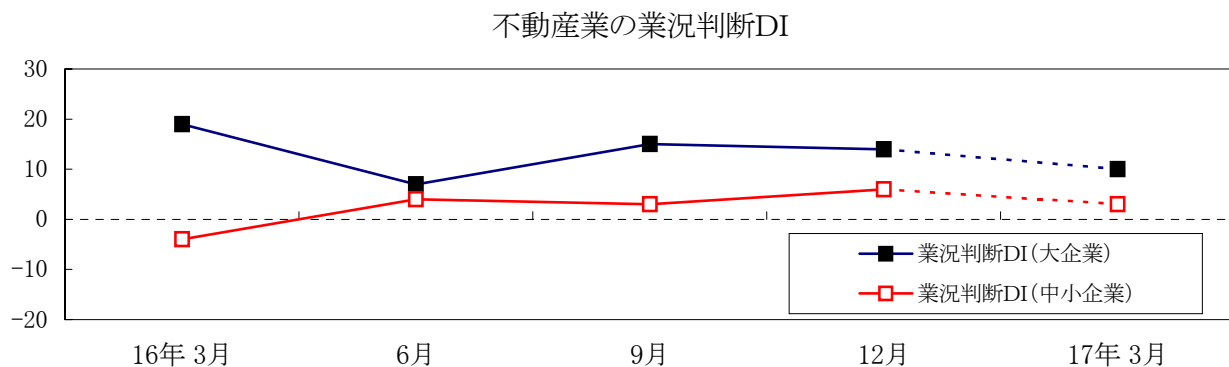
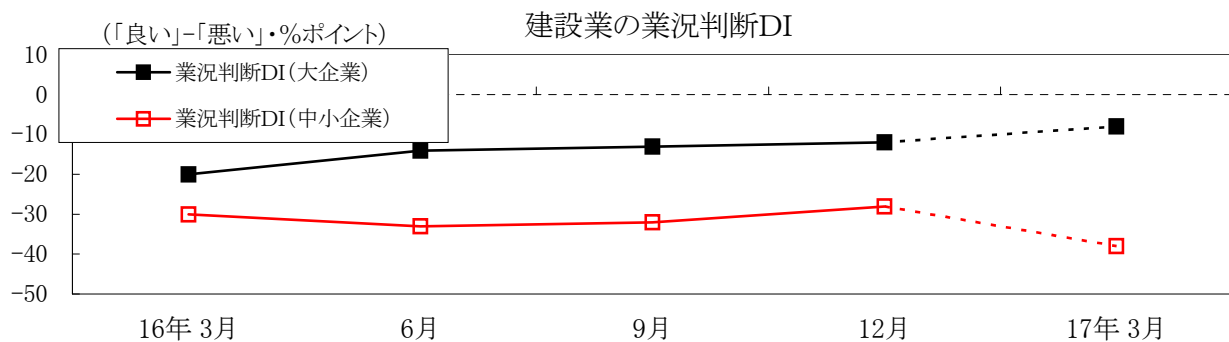
前回9月調査の「最近」は15、今回調査の「最近」は14、「先行き」は10となった。

前回9月調査の「最近」と今回調査の「最近」との変化幅をみると1ポイント悪化しており、先行きは4ポイント悪化となる見込み。

運輸業(大企業)の業況判断DI(「良い」-「悪い」)

前回9月調査の「最近」は7、今回調査の「最近」は12、「先行き」は7となった。

前回9月調査の「最近」と今回調査の「最近」との変化幅をみると5ポイント改善しており、先行きは5ポイント悪化となる見込み。



資料: 日本銀行「企業短期経済観測調査」

(注) 点線は3カ月先までの予測値

(2) 雇用情勢

就業者数等（12月調査）

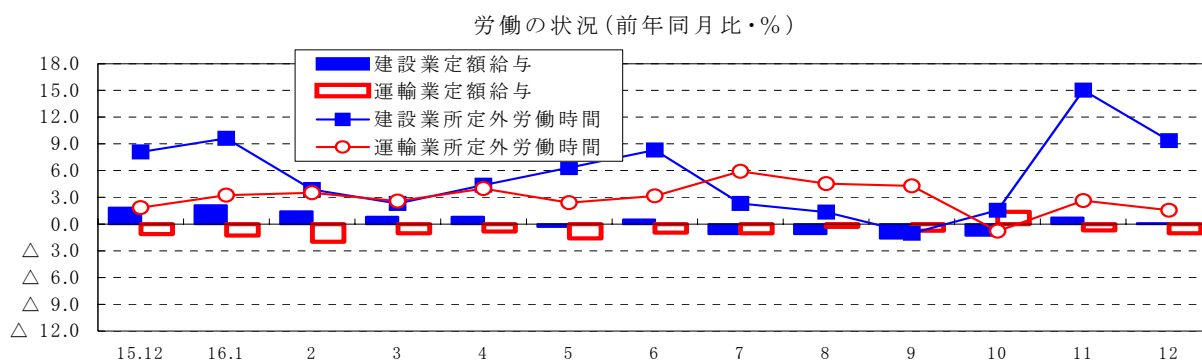
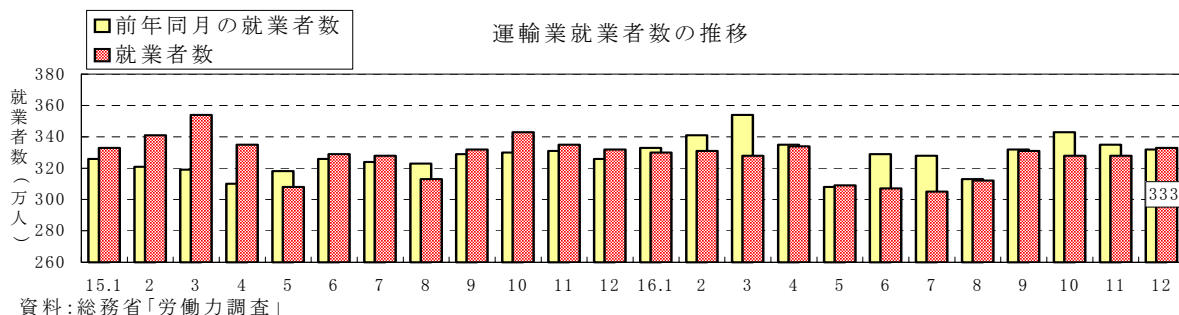
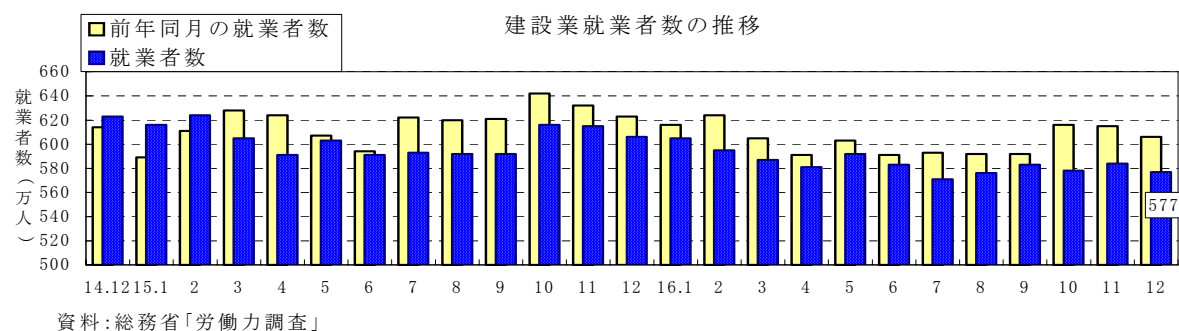
建設業就業者数は 577 万人で、前年同月比 4.8%減少（22 ヶ月連続）した。雇用者数は 474 万人で同 4.2%減少（6 ヶ月連続）し、うち常雇は同 3.8%減少（6 ヶ月連続）、臨時雇は同 13.3%減少（5 ヶ月連続）、日雇は同 4.2%減少（13 ヶ月連続）となった。

運輸業就業者数は 333 万人で同 0.3%増加（7 ヶ月ぶり）、雇用者数は 314 万人で同 1.0%増加（3 ヶ月ぶり）となった。

労働の状況（12月調査・確報）

建設業（常用労働者5人以上の事業所）の賃金指数（きまって支給する給与）は前年同月比 0.1%増加（2 ヶ月連続）、総実労働時間指数は同 1.0%増加（2 ヶ月連続）、所定外労働時間は同 9.4%増加（3 ヶ月連続）となった。

運輸業（常用労働者5人以上の事業所）の賃金指数（きまって支給する給与）は前年同月比 1.0%減少（2 ヶ月連続）、総実労働時間指数は前年同月比 0.2%増加（2 ヶ月連続）、所定外労働時間は同 1.5%増加（2 ヶ月連続）となった。



(3) 倒産

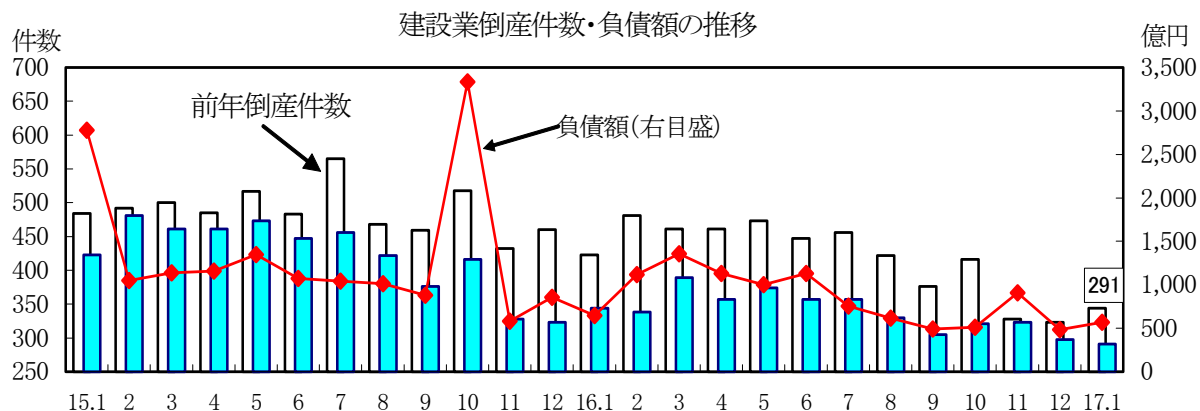
1月

全産業の倒産件数は 1,039 件で、前年同月比 13.8%減と 25 ヶ月連続の減少となった。

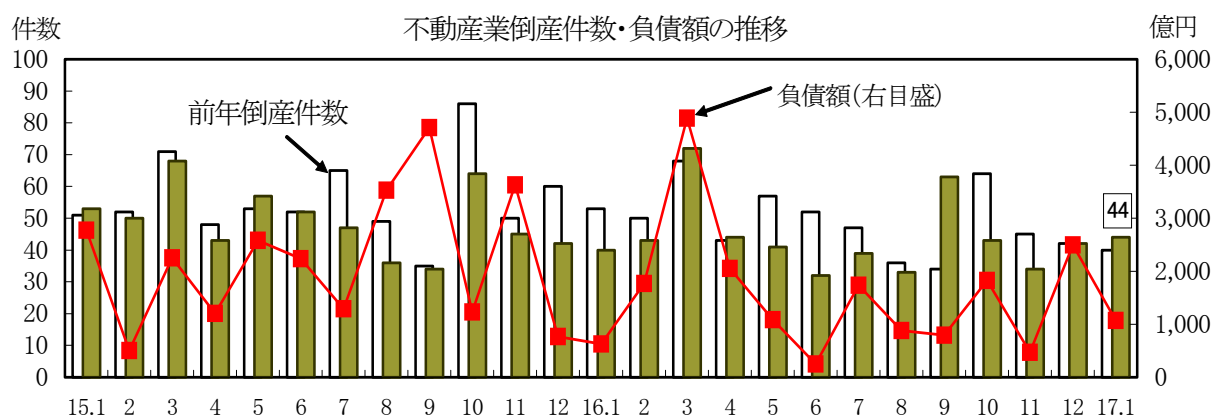
業種別にみると、建設業の倒産件数は 291 件で、前年同月比 15.4%減と 25 ヶ月連続の減少となった。

不動産業の倒産件数は 44 件で、前年同月比 10.0%増と 4 ヶ月ぶりの増加となった。

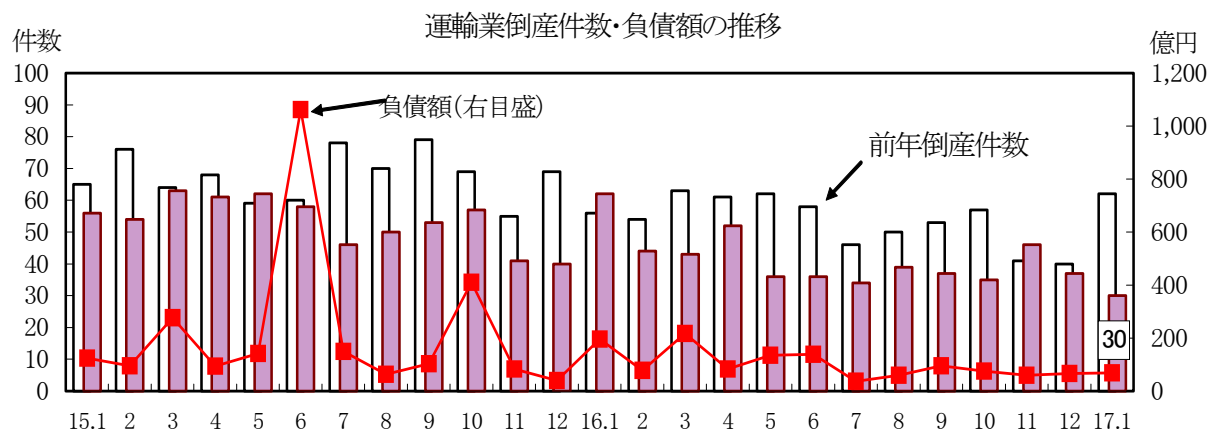
運輸業の倒産件数は 30 件で、前年同月比 51.6%減と 2 ヶ月連続の減少となった。



資料: 帝国データバンク



資料: 帝国データバンク



資料: 帝国データバンク

(4) 建設資材の市場動向

建設財の生産指数(12月確報、季調済)は81.4(平成12年=100)で前月比1.9%低下(2ヶ月ぶり)、出荷指数は83.8で同0.9%低下(2ヶ月ぶり)、在庫指数は84.5で同0.5%低下(2ヶ月連続)した。

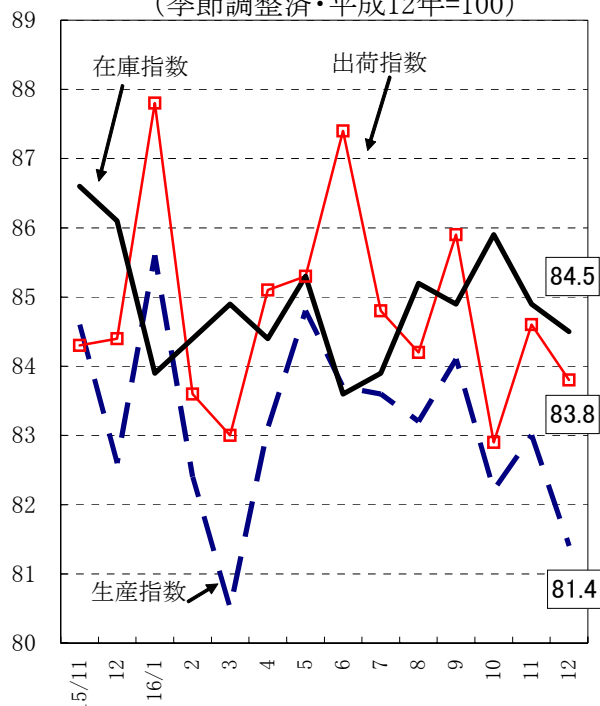
建設用材料(中間財)の企業物価指数(1月)は107.1(平成12年=100)で、前月より0.2%上昇した。

建設財の生産・出荷・在庫
(季調済前月比、%、12月)

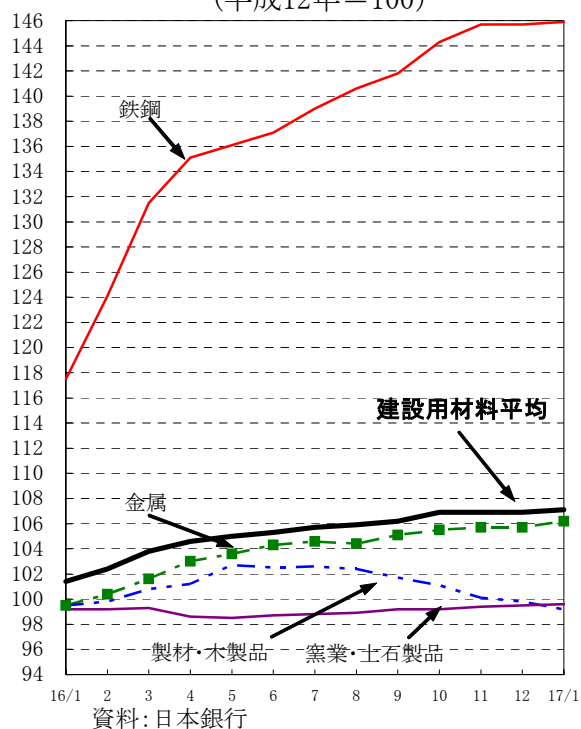
	生産	出荷	在庫
建設財	△ 1.9	△ 0.9	△ 0.5
12月確報値			
鉄鋼	△ 4.2	△ 4.1	△ 5.3
金属製品	△ 1.9	1.0	0.5
窯業・土石製品	△ 0.9	△ 1.5	△ 2.1
木材・木製品	0.6	△ 1.6	1.3
建設財(前年同月比)	△ 1.4	△ 0.8	△ 1.8
(参考) 鉱工業	△ 0.8	0.9	△ 2.0
(参考) 鉱工業(前年同月比)	1.8	2.4	△ 0.3

資料：経済産業省「生産・出荷・在庫指数」

建設財の生産・出荷・在庫指数
(季節調整済・平成12年=100)

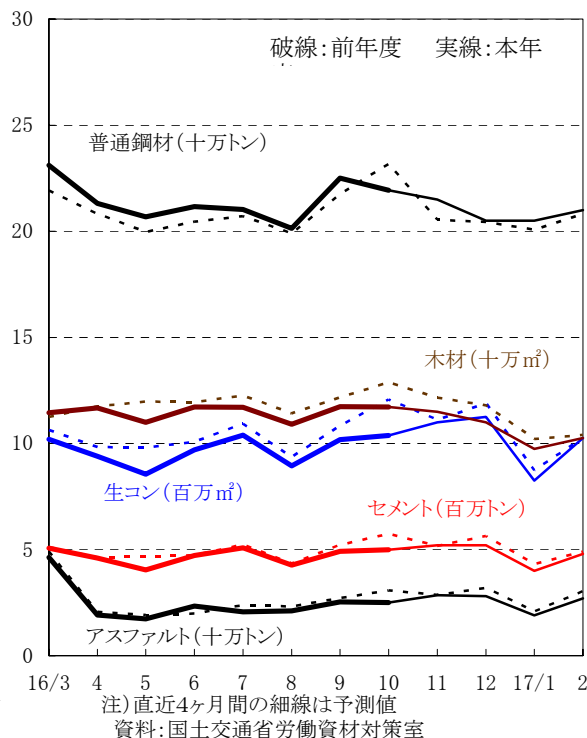


中間財 建設用材料 企業物価指数
(平成12年=100)



資料：日本銀行

主要建設資材需要量の推移

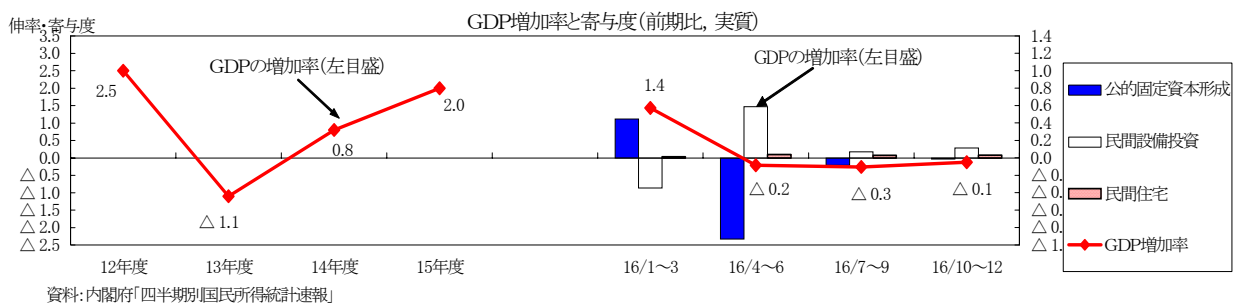


資料：国土交通省労働資材対策室

(5) 一般経済指標の概況

	全実 国質 消全 費世 支 帯出	全売 国額 百へ 既貨 存店 販	機へ 船舶・ 械電力を 除く民需 (注)	資へ 本除 財輸 出送 荷機 指 (数)	鉱生 産 工 指 (季) 前期比	輸へ 通開 額 ベ ー ス (出)	輸へ 通開 額 ベ ー ス (入)	国物 内価 企指 業数	有 効 求 人 倍 率	完 全 失 業 率	企へ 業全 倒産 業 件 (数)	マへ ネM I 2 サ+ ブC ラD イ	日 経 平 均 2 2 5 種	東交 名通 高量 速(大 型+ 道路 全特 線大 車 平 均)
	前年 同期比	前年 同期比	(季) 前期比	(季) 前期比	(季) 前期比	前年 同期比	前年 同期比	前年 同期比	(季、倍)	(季、%)	前年 同期比	前年 同期比	期 末 値 (円)	前 年 同 期 比
平成13年度	△ 2.1	△ 0.3	△ 12.6	△ 14.5	△ 9.1	△ 6.6	△ 2.3	△ 2.5	0.56	5.2	5.9	3.1	11,025	△ 4.7
14	0.1	△ 2.3	△ 3.7	△ 5.4	2.8	8.5	3.8	△ 1.7	0.56	5.4	△ 5.6	2.9	7,973	△ 0.2
15	0.0	△ 2.4	8.2	5.7	3.5	6.3	4.1	△ 0.5	0.69	5.1	△ 16.6	1.6	11,715	0.3
16年1～3月	2.1	△ 1.1	△ 5.6	3.4	0.5	11.6	4.4	0.1	0.77	5.0	△ 18.2	1.7	11,715	1.6
4～6月	2.3	△ 3.0	10.3	5.6	2.6	13.3	9.2	1.0	0.80	4.8	△ 20.4	1.9	11,859	2.6
7～9月	0.2	△ 3.0	△ 8.4	1.4	△ 0.7	12.4	13.1	1.7	0.83	4.7	△ 15.0	1.9	10,824	3.6
10～12月	△ 2.4	P △ 3.8	6.0	3.1	△ 0.6	11.2	P 17.0	1.9	0.91	4.4	△ 12.5	2.0	11,489	1.0
平成15年11月	0.7	△ 4.1	△ 5.9	△ 1.2	1.3	△ 2.0	△ 5.1	△ 0.5	0.74	5.1	△ 20.7	1.6	10,101	△ 3.2
12	0.4	△ 3.0	6.0	0.5	△ 0.6	8.5	1.7	△ 0.1	0.78	4.9	△ 24.6	1.5	10,677	△ 1.0
平成16年1月	1.3	△ 0.1	△ 8.1	8.1	2.9	11.3	0.8	0.0	0.77	5.0	△ 16.1	1.6	10,784	0.6
2	5.2	2.3	2.8	△ 3.3	△ 3.8	10.3	△ 0.9	0.0	0.77	5.0	△ 23.8	1.7	11,042	0.7
3	0.2	△ 4.5	△ 3.2	△ 6.5	0.6	13.2	12.3	0.2	0.77	4.7	△ 14.3	1.7	11,715	3.5
4	4.6	△ 1.0	11.8	7.4	3.5	10.8	6.6	0.6	0.77	4.7	△ 21.5	1.9	11,762	4.1
5	4.8	△ 2.4	△ 2.1	5.0	0.8	9.8	5.0	0.9	0.80	4.6	△ 20.2	2.0	11,236	△ 4.1
6	△ 2.6	△ 5.5	3.9	2.4	△ 1.3	19.4	15.5	1.4	0.82	4.6	△ 19.5	1.7	11,859	7.6
7	△ 1.1	△ 0.8	△ 11.3	0.9	0.0	14.3	8.3	1.6	0.83	4.9	△ 16.8	1.8	11,326	3.8
8	0.6	△ 4.7	3.1	△ 2.3	0.1	10.5	18.5	1.7	0.83	4.8	△ 18.2	1.8	11,082	3.0
9	△ 1.0	△ 4.2	△ 1.9	△ 3.2	△ 0.4	12.4	12.5	1.8	0.84	4.6	△ 9.6	2.0	10,824	4.1
10	△ 2.0	△ 3.6	△ 3.1	0.9	△ 1.3	11.7	12.7	2.0	0.88	4.7	△ 23.3	2.0	10,771	16.1
11	△ 1.3	△ 5.4	19.9	1.9	1.7	13.4	28.1	2.0	0.92	4.5	△ 2.6	2.0	10,899	△ 12.5
12	△ 3.5	P △ 2.8	△ 8.8	11.3	△ 0.8	8.8	P 11.0	1.8	0.94	4.4	△ 9.4	2.0	11,489	0.9
平成17年1月	—	—	—	—	—	—	—	P 1.3	—	—	△ 13.8	P 2.0	11,388	—

※Pは速報値。



注1) 項目別の寄与度には、民間企業設備投資、民間住宅、公的固定資本形成の他に、民間最終消費支出、民間在庫品増加、政府最終消費支出、公的在庫品増加、純輸出があり、これら全ての項目の合計が、GDPの増加率となる。
 注2) 平成11年度以前のGDP増加率は、すでに確報値として公表している数値。平成12年度のGDP増加率は、参考系列の年度合計値と比較して算出。